

# カルチャーの可視化

望ましいカルチャーの醸成に向けたアプローチ

pwc

## カルチャーの可視化

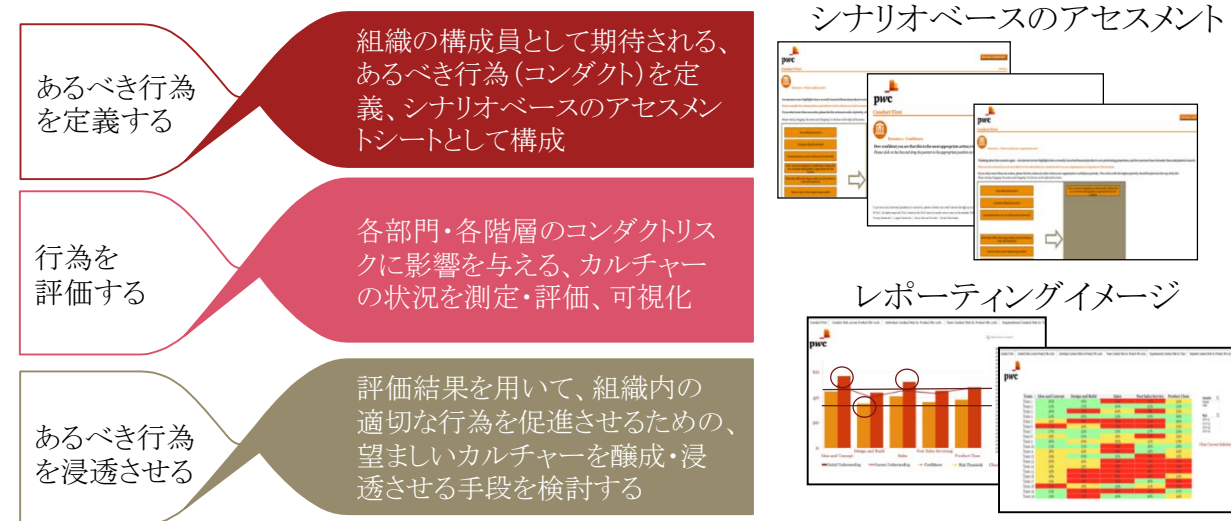
カルチャーは、組織構成員の行動(コンダクト)、提供する商品・サービスの性質、法規制への対応姿勢を含め、事業のあらゆる側面に影響を与えます。効果的なリスク管理、コンプライアンス態勢を実現するためには、単に方針や手続きを作成することのみに終始せず、「適切な人が適時に適切なことを実行する」企業文化(カルチャー)を作り上げることが不可欠です。

望ましいカルチャーとは

- 組織内での各構成員の行動は、自社が適切と考える価値観から乖離していないか
- 組織構成員の行動が、様々なステークホルダーからの社会的要請・期待と乖離していないか

## PwCのサービス

貴社とPwCとの議論を通じて、貴社にとってあるべき認識・判断・行動を定義します。作成したシナリオを用いて各従業員にアンケート形式の調査を実施し、評価結果を定量化・可視化、分析し、対応手段を検討するための枠組みを提供します。

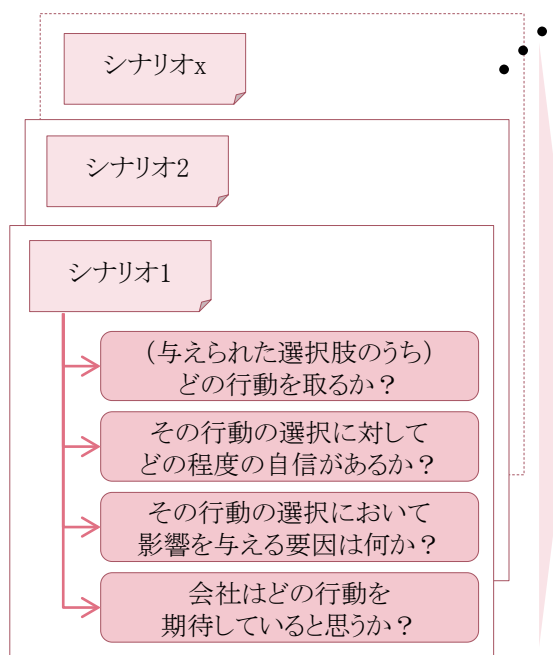


## ジレンマを含むシナリオを用いたアンケート

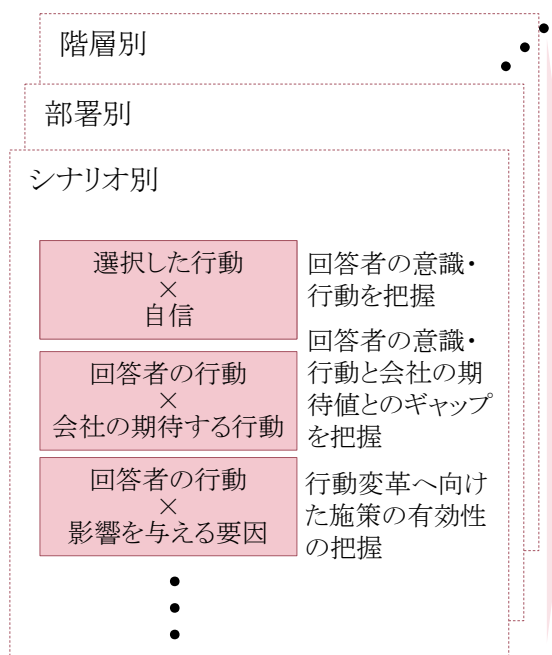
本サービスでは、ジレンマを含むシナリオを回答者に提示することで、従業員の意識・行動と自社が期待するそれとの間のギャップを様々な角度から明らかにします。

- そのシナリオに対してどのような行動を取るか
- その行動の選択に対してどの程度の自信を持っているか
- その行動の選択に影響を与える要因は何か
- 自社はどのような行動を期待しているのか

## 調査



## 分析



行動変革へ  
向けた  
アクションの  
立案と実行

(ジレンマを含むシナリオの例)

回答者には次のようなシナリオが示され、質問に回答して頂きます。

### Q1. あなたが最も適切であると考える行動は何ですか。

年度の決算に差し掛かり、目標達成の大きな圧力がかかっている。  
あなたは、営業部門の顧客担当者である。自部門で所管している全ての商品・サービスは顧客の要望を概ね満たすことができ、そのうちの特定のいくつかの商品が顧客にとってより適切であることを認識している。一方でそれ以外の、自社にとってより収益性の高い商品を提供することもできる。このような場合、あなたはどのように対応するか。

## PwCの強み

PwCのアプローチは、一般的な「従業員意識調査」「コンプライアンス意識調査」と異なる次のような特徴があります。

- カルチャーの適切性に対する目標を明確にし、社会的要請とのギャップや、組織内のギャップを把握することが可能
- 豊富なリスク管理支援やワークショップ運営の経験に基づき、多様性のあるシナリオを設定することが可能
- カルチャーに影響を与える要因にフォーカスし、望ましいカルチャーの醸成へ向けて具体的に着手可能な改善事項を明確化

## お問い合わせ

PwCあらた有限責任監査法人

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング

パートナー 辻田 弘志 hiroshi.tsujita@pwc.com

090-1424-3247

ディレクター 阿部 功治 koji.k.abe@pwc.com

080-3508-9914

© 2017 PricewaterhouseCoopers Aarata LLC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see [www.pwc.com/structure](http://www.pwc.com/structure) for further details.

This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors.